

恵林寺便り

平成27年 1月 1日
第 42 号

萬物生光輝

ばんぶつこうき しょう
万物光輝を生ず
こがくふ
（『古楽府』）



あけましておめでとうございます。

みなさま、無事に越年をお迎えのこと、まことに法幸に存じます。おかげさまで、恵林寺も一同、つつがなく新しい年を迎えることができました。新住職の晋山式も無事に執り行われ、この正月は、新しい恵林寺としての初めての新年ということになります。

本年も、なにとぞよろしく御願い申し上げます。

平成27年の最初は、久々の『恵林寺便り』です。

万物光輝を生ず

お正月には、誰もが新年を迎えて、すべてが新しく、輝いて見えることと思います...

万物光輝を生ず...すべてのものが光り輝いている...

一年の初め、元旦にはぴったりの言葉です。

しかし、実は、新年だからといって、何もわたしたちの周りのものそのものが新しいものになったわけではないのです。

新しい年を迎えるにあたっては、大掃除をして、正月のお飾りをして、万端準備を整えて臨みますが、わたしたちを取り囲むものはすべて、見慣れたもの、見慣れた顔です...

それでも、新しい年の早朝、初日の出の光を浴びながら、新年、あけましておめでとうございます！

と互いに声を交わすとき、誰もが心晴れやかに、新鮮な気持ちになっているはずです。

何かを始めるとき、何かが始まる時、これから始まる新しいもの、新しい世界への期待に、わたしたちの胸は膨らみます。

大切なことは、自分自身で「始めよう」と決めること、決断です。自分自身で何か行動を始めるのもよいですし、新しいはじまりの流れの中に身を委ねるのも良いのです... 大事なものは、自分自身で、今日から、今から、新しい何かを始め... 何かが始まる... 今、この時点から始まる、と決めること... 今日を、今を起点にして、日常生活の時間の流れに、新しい、別の意味づけを与えることです。

日常生活には順境も、逆境もあります。思うようにならないこと、辛く、苦しいこともたくさんあります。しかし、思い悩み、心惑っていても詮のない事柄に、いつまで執着していても、何にもなりませんし、何もできません。

人生の節目節目、暦の節目節目に、思い切って時間の流れを断ちきり、自分で新しい時を刻み始めれば良いのです。

時の流れを断ちきり、新しい結び目を拵えて、新たな時間として、新たな出発点として意味づけを与える...

これは、わたしたちの決心一つでできることなのです。

日本中が、静かに大晦日を迎え、年の変わり目と同時にいっせいに除夜の鐘を撞き、「新年、あけましておめでとうございます！」と新たな年、新たなはじまりを祝う...

正月には、一緒にあたらしい歩み始める仲間が、日本中にいるのです...

新たな気持ちで向き合う時、すべてのものは、輝いて見える...

物事を輝かせるのは、わたしたち自身なのです。わたしたちも、せっかくのこのお正月、ご縁のあるすべてのものを光り輝かせていきたいものです。

